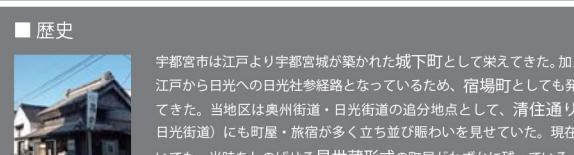


環 [:wa]

まち 動き出す



■歴史
宇都宮市は江戸より宇都宮城が築かれた城下町として栄えてきた。加えて、江戸から日光への日光社参経路となっているため、宿場町としても発展してきた。当地区は奥州街道・日光街道の追分地点として、清住通り（旧日光街道）にも町屋・旅宿が多く立ち並び賑わいを見せていた。現在においても、当時をしのばせる見世蔵形式の町屋がわずかに残っている。

近代になると、JR・東武両線の宇都宮駅出現により町の中心はその経路間に集中する。戦火の中心となったのも中心地区であり、当地区は戦火を免れたため、現代までも昔ながらの地割りや歴史的な建物が残る地区となった。

現代においては、江戸よりあった日光社参が行われなくなったこと、車社会に変化したことにより、旧日光街道は人に代わり車が優先された通りとなっている。当地区的周辺は商業地・公共施設等が集中しており、宇都宮における都心居住地としての立地・利便性はよい。

■広域ネットワーク

都心環状の周りには、栃木県庁・宇都宮市役所や宇都宮地裁といった公共施設のほか、餃子マップで紹介される餃子店や寺社といった観光名所があり、この都心環状を整備することは宇都宮にとって非常に有益であると考えられる。

対象地は都心環状線において、宇都宮駅の対角に位置する。「ひとの環」をJR宇都宮駅と対を成す人々のよりどころとして整備する。「まちなか道の駅」などの地域内での整備に加え、自転車道整備等により、都市に新たな活動域を作り出し、宇都宮市全体に散在する資源を有効活用するネットワークが生まれ、この地域が、そして宇都宮が継続的に発展していく事が出来る。



■地域ネットワーク形成



現在の清住通りは歴史的な価値を持ちながら、地域を南北に貫く唯一の道路であるために通過交通が集中している。

暮らす

- 既存住居を残した整備
- コミュニティを生む路地
- 未接道住戸の解消

活かす

- 快適な歩行者空間
- 歴史を感じる街並
- 住人と来訪者の交流

支える

- 地域を支える都市拠点
- 公共施設の充実
- 移転住人の受け入れ

